

甘しょ新品種「コガネセングン」について

坂井健吉・丸峯正吉・広崎昭太
 菊川誠士・井手義人・白坂 進
 (九州農業試験場)

SAKAI, K., MARUMINE, S., HIROSAKI, S., KIKUKAWA, S., IDE, Y. and SIRASAKA, S.
 A new variety of sweet potato, "Koganeseengan"

まえがき

九州地方の甘しょ作は、その大半が原料用であり、またでん粉歩留の高い優れた原料いもを生産する地域でもあることから、他地方の減反傾向とは反対に作付面積は増えてきた。しかしでん粉価格はけししい変動が生いも価格不安定を招来し、九州地方でも最近では、減反傾向がみられる。でん粉の需要は年々増えているにもかかわらず、甘しょでん粉ひいては原料いもの生産が減少している現状は、輸入でん粉に比べて甘しょでん粉のコストが高いためであり、でん粉の生産費を引下げることが焦びの急務である。このため高でん粉多収品種の早期育成が強く要望されている。コガネセングンは、この目的のために育成されたものであり、また従来品種とは異なった血縁関係をもつきわめて優れた品種である。昭和41年5月甘しょ農林31号として登録され、コガネセングンと命名され、当面佐賀、宮崎両県で奨励品種として普及に移された。ここにその育成経過と特性の概要を報告する。

来歴および育成経過

昭和33年農林省九州農業試験場指宿試験地において、鹿系7-120(内地品種×南方種)を母とし、L-4-5(別名 Pelican Processor 米国種)を父として人工交配を行ない、翌34年より農林省九州農業試験場作物第二部ならびに熊本県農業試験場甘しょ隔離圃場において、実生より選抜を重ねるとともに、斑紋ウイルス病の検定と無病いもの増殖を行ない、昭和39年九州55号の系統名で関係県に配布した。その結果成績優秀であったので、昭和41年5月新品種に登録された。

特性概要

萌芽は良好であるが、萌芽数がやや少ない。つるは中程度の太さで、長く伸びないが、草勢は強く、とく

に初期生育がよい。つる重は普通栽培で農林2号より多い。いもは黄褐色で肉色は淡黄、形は短紡錘形で、浅い条溝があり、やや大小不揃いであるが、外観は良い。蒸いもの肉質は粉質で食味は上である。いも収量は普通栽培で、農林2号に比し20~25%程度多く、でん粉歩留りも2~3%高い。とくに早掘栽培(5月上旬植-9月上旬掘)においては優れ、農林2号に比し収量で40%、でん粉歩留りで3~4%高い特徴をもっている。ネコブ、ネグサレ両線虫には強いが、黒斑病にはやや弱い欠点がある。九州各県における成績概要は第1表のとおりである。

適地ならびに栽培上の注意

各地における成績概要からみて、九州全域に広く適するが、なかでも霧島、阿蘇の黒色火山灰地帯に好適する。萌芽数がやや少ないので、種いもは農林2号より1割程度多目に伏込む必要がある。早掘収量が多く、早掘りした場合でも、でん粉歩留りが高いので、早期操業用の原料としても適している。黒斑病には、やや弱いので、種いもには無病無傷のものを貯蔵するやうにしなければならない。

第1表 九州各県における
 コガネセングンの成績概要(標準栽培)

場所名	収 量		でん粉歩留 (切干歩合)		概 評	
	昭39	昭40	昭39	昭40	昭39	昭40
福 岡(甘木)	143	119	(37.3)	24.4	○	○
福 佐	105	119	22.3	19.4	○	◎
長 崎	111	107	24.3	22.1	○	○
熊 本	139	141	21.3	24.6	○	○
大 分	110	103	(39.7)	20.4	○	○
宮 崎	109	110	23.9	23.7	○	◎
都 城	152	135	23.0	23.5	○	◎
鹿 屋	107	115	20.6	24.8	○	○
鹿 屋	111	91	26.6	(36.5)	△	○

収量は対標準比率、概評は◎奨品、○有望、△再検